

令和元年6月22日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02171

研究課題名（和文）ネパールの仏教梵語写本に見られる写本文化の受容と変容

研究課題名（英文）Acculturation of the manuscript culture in Nepalese Buddhist Sanskrit codices

研究代表者

倉西 憲一（Kuranishi, Kenichi）

大正大学・仏教学部・非常勤講師

研究者番号：90573709

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：当該科研はネパールに所蔵されている仏教梵語写本に焦点を絞り、それらの作成時期・作成方法・作成理由等を、文献学的かつ文化学的な観点に基づいて、ネパールにおける写本文化を考察することになった。そして、研究成果の一つとして、関連写本のデジタルデータから写本の資料情報（大きさ、字体、行数、作成背景など）を採取し、それらを分析することで、ネパールにおける仏教梵語写本の、特に作成理由（研究ノートとしての写本）の一端を解明することができた。

また、現地へ赴き、個人所有の写本を中心に探索し、現在も残っている写本文化についても考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

当該科研でおこなった研究は、梵語写本をめぐる文化を考察するというこれまでそれほどおこなわれてこなかった点を扱っており、印度学や仏教学といった関連学会だけでなく、文化人類学など他の学問分野にも貢献できるといえる。ネパールという地域、仏教という一宗教に限定しているとはいえ、こうした写本という事象を総合的多角的に研究する試みはこれからの関連分野の研究に必要である。

また、近年発生したネパール大地震により、甚大な被害を被ったネパール文化を保全するための小さいながらも一助（個人所有写本のデジタルデータ化およびリスト化による保全）として、役に立つ成果を挙げることができた。

研究成果の概要（英文）：The aim of this project is to investigate the Buddhist manuscript culture in Nepal based on the philological and cultural points of views through the dates, the methods, and the reasons of production of manuscripts. The main result of this project is to somewhat figure out a particular reason of producing a manuscript, that is to say, a kind of notebook of scholarly activities, through analyzing the manuscripts' digital data mainly.

Moreover, we could glance on the present culture of manuscripts in Nepal by searching manuscripts kept in private houses or temples.

研究分野：インド仏教

キーワード：ネパール仏教写本 ホジソンコレクション アムリターナンダ シクシャーサムツチャヤ 研究ノートとしての写本

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

インドやネパールをはじめ、さまざまな国で所蔵保管されている梵語(サンスクリット語)写本は、近年のデジタルデータ化およびそれらのデータベース構築によって、これまでとは異なり、容易に取得できるようになってきている。こうした現況によって、梵語写本の文献学的かつ文化史的なアプローチを通じた総合的多角的な写本研究の遂行に最適な研究環境が整ってきたといえる。

写本を研究対象とする「写本学」は、近年、世界中の研究期間が様々な分野で大々的におこなわれている。例えば、ドイツ・ハンブルグ大学は「Manuscript Culture in Asia, Africa and Europe」というプロジェクトを立ち上げ、世界中から研究者を集め、多文化多言語にわたる「写本学」が進められている。同プロジェクトは、10年近く経った現在も、精力的に研究成果を世に出している。当該科研プロジェクトを進める上で、このドイツ・ハンブルグ大学のプロジェクトとのコネクションは大いに役に立った。

報告者は当該科研プロジェクトを始めるにあたって、上記のような「写本学」プロジェクトの最新研究成果を参照し、これまで研究対象としてきた仏教梵語写本の書写されているテキストの内容だけでなく、伝達媒体である写本そのものの特徴など写本文化を研究する必要性に気づいた。聖典や論典を書き写す行為は、概して、写本書写の功德やそれを携行することで願望を成就するといった宗教的なことがまず挙げられる。しかしながら、多くの写本の書写目的は、仏教で言えば、学僧たちの学術行為の一環としても当然おこなわれていたのである。写本作成の宗教性と学術性の両者を視野に入れて、作成時期、作成理由などが記されている写本の奥書などから文献学的かつ文化史的に考察することは、多くの写本デジタルデータが参照できるようになった今、遂行されるべき研究であるといえる。こうした試みは、上記ドイツ・ハンブルグ大学のプロジェクトでもおこなわれているが、当該科研プロジェクトが焦点を当てたネパールの仏教梵語写本については、それほど研究が進んでいないのが現状である。

当該科研プロジェクトで扱うネパール所蔵の梵語写本は、1970年代にドイツ・ハンブルグ大学が中心となって「Nepal German Manuscript Preservation Project」を立ち上げ、公私にわたって、所蔵されているおよそ180,000点にも及ぶ写本がマイクロフィルムに撮られた。さらに、そのプロジェクトを継承して、2002年に「Nepal German Manuscript Cataloguing Project」が発足し、各写本の詳細なデータがインターネット上(NGMCP Wiki)で参照可能になっている。

## 2. 研究の目的

当該科研プロジェクトの目的は、世界中に数多く存在している梵語写本の中でも、特にネパールで作成された仏教梵語写本に焦点を絞り、それらの作成時期、作成方法、作成理由等を考察し、文献学的かつ文化史的な視野をもって、当時の写本とその作成行為が、宗教的かつ学術的に、どのように受容され、展開していったのかについて研究することにある。

前述のように「写本学」の研究体制は整ってきてはいるが、2015年4月25日に発生したネパール大地震によって、公文書館や研究所、さらには寺院などが甚大な被害を受けており、写本そのものなどといった文化資料が危機に瀕している。3年以上経った今でも、完全なる復興には程遠いのが実状である。当該科研プロジェクトによって、写本という文化遺産の保存に少しでも貢献することも目的の一つである。

## 3. 研究の方法

当該科研プロジェクトを遂行するにあたっては、以下三点を研究方法の基本軸とした。

ネパール所蔵の仏教梵語写本から本研究課題の主題である「写本に見る文化的側面」を知ることでできる写本の選別とそれらのデジタルデータ（画像・書誌情報）の蒐集。

写本のフォーマット（大きさ・字体・行数・一枚あたりの文字数、割り注、余白注）や奥書に基づいた写本の背景の調査。

でおこなった調査をもとに仏教梵語写本の文化史的展開を考察。

世界中の関連研究機関（ハンブルグ大学、オクスフォード大学、大英図書館、ナポリ大学など）に所属する研究者と密に連絡をとり、研究分担者および研究協力者（下記研究組織参照）共々、上記三点の研究作業を入念におこなった。

#### 4．研究成果

当該科研プロジェクトの研究対象である写本デジタルデータの蒐集、さらにはネパールの個人所蔵などローカルエリアの写本の探索とそれらのデジタルデータ化をおこない、詳細な写本データを蓄積することができた。さらには、大英図書館所蔵の19世紀にネパールで作成された梵語写本にアクセスし、研究した。このように蒐集したデータから、ネパールの写本文化が垣間見られる写本を選定し、大きく分けて、以下の三つの詳細な研究をおこなった。

(1) パシュパティナート寺院周辺で作成された写本の研究。

研究成果は、研究協力者・房氏により近日出版予定。

(2) 学僧たちによって作成された何らかの教理的主題に基づく「研究ノート」的な写本の研究。

研究成果は、下記〔雑誌論文〕 および〔学会発表〕。

(3) 19世紀から現在に到るまでのネパール写本をめぐる文化事象の研究。

研究成果は、下記〔雑誌論文〕、〔学会発表〕 および〔図書〕。

その他、当該科研プロジェクトの成果として蒐集したネパール所蔵の梵語写本に基づいた研究を国内外の研究者と協力研究しており、これらの研究および写本データの蒐集は現在も継続中である。

#### 5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

Sudan Shakya, 'A Study on the Tibetan Manuscript Transliterated in Devanagari Existing in Nepal', *Journal of World Buddhist Cultures*, 査読有、vol.2、2019、pp. 141-159

Kenichi Kuranishi, 'An Unidentified Work attributed to \*Āryadevapāda contained in NGMPP B31/6: Preliminary Edition and Notes', 『仏教文化学会紀要』, 査読有、第28巻、2019（印刷中）

伊集院 菜、加納 和雄、倉西 憲一、Péter Szántó, 「梵文和訳『サマーヨーガタントラ』第1章」, 『大正大学総合仏教研究所年報』, 査読有、第41号、2019（印刷中）

種村 隆元、加納 和雄、倉西 憲一, 「Ratnarakṣita 著 *Padmīnī* 第13章傍論後半 - Preliminary Edition および註」, 『川崎大師教学研究所紀要』, 査読有、第4巻、2019、pp. 1-42

スダン シャキヤ, 「ネパール仏教におけるヴラタ (vrata) について」, 『日本佛教学会年報』, 査読有、第87巻、2018、pp. 21-42

Bang Junglan, Kenichi Kuranishi, 'Secret signs for Yogins and Yoginīs: the Preliminary Edition and Translation of *Padmīnī* ch.9', 『大正大学総合仏教研究所年報』, 査読有、第40巻、2018、pp. 145-171

種村 隆元、加納 和雄、倉西 憲一, 「Ratnarakṣita 著 *Padmīnī* 第1章傍論 - Preliminary Edition および註」, 『川崎大師教学研究所紀要』, 査読有、第3巻、2018、pp. 25-58

種村 隆元、加納 和雄、倉西 憲一、「Ratnarakṣita 著 *Padminī* 第 13 章傍論前半-Preliminary Edition および註-」、『川崎大師教学研究所紀要』、査読有、第 2 巻、2017、pp. 1-34

種村 隆元、加納 和雄、倉西 憲一、「密教經典を権威づける-Ratnarakṣita 著 *Padminī* 第一章 前半和訳-」、『*Acta Tibetica Buddhica*』、査読有、vol.9、2017、pp. 123-144

Kenichi Kuranishi、「Some Remarks on the Daikongorin-dhāraṇī(大金剛輪陀羅尼)」、『豊山学報』、査読有、第 60 巻、2017、pp. 1-13

〔学会発表〕(計 9 件)

Sudan Shakya、「The Mañjuśrī-Nāmasaṃgīti and China-Nepalese Mañjuśrī Bodhisattva Faith」、The International Academic Conference on the 1400th Anniversary of the Tang's Capital, Chang'an: Dream-lingering Silk Road、2018

倉西 憲一、「聖者流の新出写本-Āryadeva に帰されるテキスト-」、『仏教文化学会』、2018

Sudan Shakya、「The philosophy of Mahāyāna and Tantric Buddhism」、The International Conference in Lumbini Buddhist University、2018

スダン シャキヤ、「ネパール現存のデーヴァナーガリー文字音写のチベット語写本についての一考察」、『国際シンポジウム「チベットの宗教文化と梵文写本研究」』、2017

スダン シャキヤ、「ネパール仏教のヴラタ(vrata)について」、『日本佛教学会』、2017

倉西 憲一、「『クリシュナヤマーリタントラ』の新出写本について」、『日本印度学仏教学会』、2017

スダン シャキヤ、「The Characteristics of Translation and Interpretation seen in the Sanskrit-Newari Bilingual Manuscripts」、The International Conference on the Śrāvakabhūmi and Buddhist Manuscript、2016

倉西 憲一、「『大金剛輪陀羅尼』の受容と展開-サンスクリット語原文の再検討をめぐって-」、『仏教文化学会』、2016

倉西 憲一、「The Buddha Nature in Vajrayāna-Focusing on the case of the *Sarvatathāgatatattvasaṃgraha*」、The International Conference on the Tathāgatagarbha or Buddha-nature Thought-Its formation, Reception, and Transformation in India, East Asia and Tibet-、2016

〔図書〕(計 1 件)

スダン シャキヤ(共著)、ノンブル社、「The Manuscript-culture in the Nepalese Buddhism」、*Śrāvakabhūmi and Buddhist Manuscript*、2017、278 ページ (pp. 235-255)

〔その他〕

ホームページ等 <https://tais.academia.edu/KenichiKuranishi>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：スダン シャキヤ

ローマ字氏名：Sudan Shakya

所属研究機関名：種智院大学

部局名：人文学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 60447117

(2)研究協力者

研究協力者氏名：房 貞蘭

ローマ字氏名：Bang Junglan

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。